

# 人と人との絆を再びつなぎたい

## 「抱樸館福岡」準備室の取り組み

### 行政に先駆け

### はじめた支援

2010年5月、福岡市に開設予定の生活困窮者のための自立支援施設「抱樸館福岡」。その準備室スタッフが中心となり、現在福岡市での支援のベース作りと、巡回相談によるホームレス支援活動、開設に向けた準備がすすんでいます。「抱樸館福岡」準備室（以下、準備室）の活動を紹介します。

また、その支援を受け自立した、一人の女性に話を聞きました。

## ホームレス問題を考える 11



前列が準備室長の青木康二さん、後列左からスタッフの市丸さやかさん、久保和雄さん、瀬崎篤弘さん



巡回相談のようす

「抱樸館福岡」は、社会福祉法人グリーンコープが100%出資し、NPO法人北九州ホームレス支援機構と共同で運営することになっている施設だ。北九州ホームレス支援機構はホームレスの自立支援において20年の歴史を持ち、北九州や下関市を中心に幅広く活動している。その実績によりホームレス自立支援センターの委託を北九州市から受けるなど、高く評価されている。福岡での支援はまだ緒に就いたばかり。北九州で支援に携わってきた準備室長の青木さんをはじめ、4人のスタッフが「抱樸館福岡」開設の準備の傍ら、博多区や中央区を中心に市内全域で巡回相談を行っている。

「抱樸館福岡」の開設と同時に福岡での支援もスタートする予定だった。しかし昨年7月、建設予定地が住民の反対運動により白紙に。それでも「厳冬を控え福岡市内に1000人と言われる路上で暮らす人たちに、1日でも早く、少しでもできることを」と次の候補地決定を待たずに巡回相談をはじめた。これまでも自立に至ったのは50人。福岡市の行政も昨年からの策に乗り出しているが、当時はまだ手つかずの状態。「もしもあの時すぐに支援をはじめていなかったら、路上で亡くなった人がいたかもしれません。行政に先駆けて支援をはじめたことで、命を救うことができて本当によかった」と青木さんは言う。

### トータルにサポートし 人生の伴走者に

北九州ホームレス支援機構の自立支援の大きな特長は、一時的な支援ではなく、自立後のケアまでトータルにサポートし、自立をめざす元ホームレス者の人生に寄り添うことだ。もちろん福岡での支援もこの方法を継承する。「ホームレスとは、『ハウスレス』ではなく、人との絆（ホーム）を失った人たちです。その人たちと人間関係を築き、伴走することが大切です。共助と生命を大事にしてこられたグリーンコープだからこそ、私たちは連携できるのです」と青木さん。

### 「抱樸館福岡」の挑戦

準備室はチームワークを大切に4人が連携して支援に当たる。まずはホームレス者との関係をつくるため、巡回し声を繰り返す。こうやって徐々に信頼が生まれる。次に、住む場所、就職へと相談は続く。借金があればグリーンコープの生活再生相談室へ、身体に悪いところがあれば病院へ

一緒に行く。療育手帳の申請も行う。ホームレス者には軽度の知的障がいを持つ人の割合が高く、しかも障がいがあることを誰も認識せず、療育手帳を持たない場合が多いからだ。このようにホームレス者の人生に軸を置いた取り組みは、行政などの支援ではほとんど例がない。

「抱樸館福岡」は80人が入居できるこれまでにない大施設。相談員は8人。1人の相談員が10人の入所者を担当することになる。シフトを組み、24時間、365日常駐の体制をとる。その中心となるのが、準備室の4人のスタッフだ。しかし、青木さん以外は未経験者。北九州ホームレス支

援機構で3カ月の研修を積んできた3人にとって巡回相談が実地の研修の場となる。「大事なのは知識ではなく、共感できる心、社会への問題意識、絶対やるぞという意欲」と青木さん。春からは新たにスタッフが増える予定で新人教育も忙しくなる。厨房を預かるのは、グリーンコープのワーカー経験者。食事を作るだけではなく、この取り組みに理解・共感し、入居者が気軽に相談できるような人が青木さんの希望だった。

## 支援のおかげで、人とのつながりを取り戻しました

Sさん(55歳 女性)

離婚後7年以上一人で生活を立てていたが、体調を崩し、ずっと疎遠だった熊本の実家へ身を寄せた。42歳の時だった。母親、弟夫婦と生活するようになるが、どうしてもうまくいかず、このままでは精神的におかしくなると思い、実家を飛び出した。それまでは就職先を探すのに苦労したことはなかった。しかし、昨年1月に家を出た時は、折からの不況でまったく仕事が見つからなかった。途方に暮れ、熊本の役所に相談するが相手にしてもらえなかった。相談できるほど親しい友人は誰もいなかった。

昨年7月福岡にやって来たものの、やはり仕事はなく、ネットカフェやファストフード店で夜を明かす。手持ちの金はほとんど減っていき、数日後に公園で夜を明かすようになった。

「抱樸館福岡」は一人の人間としてプライドを傷つけないよう、やさしく接してくれました。この人なら、全部預けられると思いました。いつでも連絡できるようにとテレホンカードを渡された。福岡に来て初めて人とつながりが持て、それまでの不安が消し飛んだ。

「私もホームレスになった」と、つい涙がポロポロ。ある夜、中央区内の公園で寝ていると、若い男に思い切り蹴られ傷を負った。傘でつつかれたこともある。女性ならではの誘惑も多かった。逃げるしかなかった。歩き疲れて1000円の中古自転車を買った。いろいろな公園を廻った。どこに行けば安全なのか分からず、いつも不安で恐ろしかった。

「私もホームレスになった」と、つい涙がポロポロ。ある夜、中央区内の公園で寝ていると、若い男に思い切り蹴られ傷を負った。傘でつつかれたこともある。女性ならではの誘惑も多かった。逃げるしかなかった。歩き疲れて1000円の中古自転車を買った。いろいろな公園を廻った。どこに行けば安全なのか分からず、いつも不安で恐ろしかった。

「抱樸館福岡」は一人の人間としてプライドを傷つけないよう、やさしく接してくれました。この人なら、全部預けられると思いました。いつでも連絡できるようにとテレホンカードを渡された。福岡に来て初めて人とつながりが持て、それまでの不安が消し飛んだ。

「抱樸館福岡」の息の長い支援の取り組みが、これから続いていく。